

心をこめた医療と看護・介護を…

松リハだより

松山リハビリテーション病院

2015
18号

発行日
平成27年11月

発行者：医療法人財団 慈強会 松山リハビリテーション病院 TEL089-975-7431 FAX089-975-1670 <http://www.jikyokai.or.jp>

より安心できる退院を目指して…



松山リハビリテーション病院

看護部長 倉橋千秋

雲が秋めき、朝晩肌寒くなりました。例年に比べると少し早い気がします。

今年度7月より看護部長に就任いたしました。とまどいながらも日々奮闘しております。引き続き御指導のほどよろしくお願い申し上げます。

回復期を担っている当院では「全病棟365日リハビリ」を実施しています。また、看護部も全病棟、日中離床スタイルを基本とし、「回復期リハ病棟のケア：10項目宣言」に準じたケアを実施しています。患者様は、長期療養の方も寝たぎりの方も日中は普段着に着替え、食事は食堂で、洗面は洗面所で、排泄はトイレで…と可能な限り離床して過ごしていただいています。病棟では、看護師・介護士とも生活リハを意識し、一つひとつの生活動作をリハビリ場面と捉え、定番ですが「その人らしく」を大切に早期に在宅・社会復帰を目指しています。

診療報酬の改訂後、重症者の受け入れが増え、かつ高齢者のリハビリ希望も多くなりました。また、医療が必要な状態のまま在宅に帰られる方も増えています。看護師は、生活動作の援助とともに病状悪化のリスク管理と異常の早期発見のアセスメント能力が求められます。同時に、看護の視点を持った退院支援もより重要となりました。今年度、看護部では退院支援看護師の育成に取り組み、退院に向けてのスクリーニング・アセスメントの充実とともに退院支援に関する知識・技術の向上を目指しております。退院支援看護師の活動により、各看護師の認識が高まり看護計画に反映されることは、患者様のより安心した退院に繋がると考えます。さらに、医療と介護の連携の充実が図れるだけでなく、在宅への窓口も広がるのではないかと期待しています。

現在、県内各医療機関、介護・福祉関連事業所、行政等が地域包括ケアシステムの構築に向け動いており、医療・介護をとりまく環境が複雑に変化しています。急性期から回復期、回復期から維持期への移行の中、当院の役割も今後変わっていくものと思われます。患者様・ご家族様だけでなく、地域の方々にも求められる病院を目指し、更なる看護の質の向上とその役割に即した体制づくりに努めて参りたいと思います。



高次脳機能障害支援拠点機関だより

去る8月8日、松山市立子規記念博物館にて、松山リハビリテーション病院主催による「平成27年度 愛媛県高次脳機能障害支援拠点機関講習会」を開催しました。特別講演では、国際医療福祉大学病院 太田喜久夫教授より、リハビリテーション医の視点から捉える高次脳機能障害者の連続した支援について、一般講演では、財団新居浜病院 臨床心理科 小森憲治郎科長より、FABの見方についてご講演いただきました。その他、家族会による活動報告などが行われ、医療福祉関係者ら約200名の出席を賜りました。

愛媛県の取り組みは、地域支援ネットワークの構築に力を入れた「愛媛モデル」として全国から注目をいただいておりますが、まだまだ十分ではないのが現状です。高次脳機能障害支援拠点機関として、地域の皆様のご協力をいただきながら、地域支援ネットワークの拡充等、更なる飛躍を目指して参りますので、今後ともよろしくお願いたします。



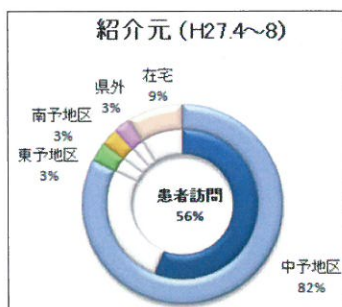
地域医療福祉連携室 NEWS

地域医療福祉連携室は、看護師3名と事務員1名(実働)が、前方連携業務を担い、入院相談や紹介元病院への患者訪問・当院内見学の案内・入退院の病床把握等を行っています。

患者訪問は、看護師が診療情報提供書とADL情報(看護要約書)や電話の対応だけでは把握困難な患者の意識状態や認知の程度などリアルな状況を確認し、リハビリの説明や当院の案内もしています。病院訪問することによって、連携担当者や現場の看護師と直接情報交換する機会も増え、患者家族の転院に対する不安の軽減にも繋がっていると思います。

患者訪問を開始した平成22年6月当初は週1回でしたが、看護師を1名増員したことで今夏より随時訪問できる体制となり、今まで訪問できていなかった病医院へも伺うことが可能となりました。転院希望の方がいらっしゃいましたら、訪問時相談も可能ですのでお声かけ下さい。

今後も、病院間の顔の見える連携と、患者家族が少しでも安心してスムーズに転院して来られることを目標に日々励みます。



就任医師紹介

平谷 勝彦 医師
リハビリテーション科
ひらたに かつひこ

愛媛大学医学部卒
日本外科学会 外科専門医 日本脈管学会 脈管専門医
趣味: テニス・ランニング・観劇・読書

先生からひとこと 年は取ってしまいがまだまだ働けます!

やまがみ じろう

山上 二郎 医師
リハビリテーション科

帝京大学医学部卒
日本リハビリテーション医学会 認定臨床医 日本医師会 認定産業医
趣味: 釣り・スキューバダイビング、スノーボード

先生からひとこと 一医師として、チーム医療メンバーに入れて頂ければ幸いです。

皆さんは息を何秒止められますか？

30秒～1分位でしょうか？

呼吸は生きていく為に欠かせない行為です。近年、COPDなどに代表される慢性呼吸器疾患が多く報告されており、2014年における日本人の死因第3位は肺炎となっています。呼吸器疾患は日本人の健康的な生活を語る上で外せない要因となっています。

当院でも呼吸器疾患の症状を呈している患者様が見受けられます。

多くの場合は息苦しさを訴えられる方が多いため、楽に呼吸が出来る状態を提供することが大切になります。

どのような事に気を付ければよいでしょうか？

簡単で確実な方法は起きる(離床)ことです。

人間の内臓は横隔膜で胸腔と腹腔に分けられています。肺のある胸腔は陰圧、肝臓・胃袋・腸がある腹腔は陽圧に保たれています。人間が横になった状態では気圧差で腹腔の臓器が胸腔側に引っ張られ、肺が圧迫されてしまいます。座ることで重力が横隔膜にくっついていてる人体最重量臓器「肝臓」を下向きに引っ張り

ます。そのおかげで胸腔のスペースが広がって肺が広がり、呼吸しやすい状況を作ることができます。座ることができない場合でも、ベッドのギャッジアップや車椅子のリクライニング機能を利用して角度を付けて起きることで効果は十分期待できます。

少しずつ身体を起こすことで元気になっていきましょう！起こすことが難しい場合はリハビリスタッフまでお声をかけてください。

(作業療法士 片上)



松リハ★スペシャリスト

No.5 リハビリテーション部 作業療法科 武内 俊憲

第15回愛媛県作業療法学会で「研究奨励賞」を受賞しました。

今回の発表内容は、重度運動麻痺を呈した患者様に対して、退院前家屋訪問調査や福祉用具のレンタルシステムなど、当院の取り組みを活用し、生活環境面への介入を行い、自宅退院に繋がったというものでした。初めての学会発表のため、発表資料作成の際には、役職者の方や先輩方のご指導をたくさん頂きました。今回、研究奨励賞という素晴らしい賞をいただいたのも、みなさんのご指導があったのだと思っております。この場を借りてお礼申し上げます。

今後の目標としては、作業療法士として患者様の「意味のある作業」を中心とした介入を行い、質の向上を目指して自己研鑽していきたいと思っております。



No.6 リハビリテーション部 作業療法科 松岡 歩

第26回四国作業療法学会で「学会優秀賞」を受賞しました。

今回の研究内容は、脳梗塞を発症し、高次脳機能障害の患者様に対して失行症に対するアプローチを実施したところ、調理の介助量が軽減したという報告でした。特に重度の失語症を呈していたため、言語聴覚士との情報共有を密に図ることで、訓練内容に適切な段階付けを行うことができ、改善に至ったと考えております。

今回の受賞は、ご協力して頂いた患者様やアドバイスを頂いた先輩方、他部門のスタッフの方々の協力があったからこそ受賞できたものと思っております。この場を借りて御礼申し上げます。

今後の目標としては、患者様に対して質の高いリハビリテーションを提供できるよう引き続き自己研鑽に励みたいと考えております。



関連施設の紹介

介護老人保健施設 高井の里 / 居宅介護支援事業所 高井の里

施設理念「私達は、あたたかく心のこもったケアを包括的に提供し地域社会に貢献します。」の下、在宅支援に向けた様々なサービスを提供しています。

平成27年7月には、併設事業所「居宅介護支援事業所 高井の里」を開設し、入所中から在宅復帰後の生活に対する切れ目のない支援の提供等がより可能になりました。



■サービスの概要

介護老人保健施設 【在宅強化型】

要介護1～5の方を対象に、自立支援と早期の在宅復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護ケア・介護ケアや理学療法士等によるリハビリテーションのほか、食事、入浴などの日常生活上の支援を包括的に提供するサービスです。

(介護予防) 短期入所療養介護

要支援1～2・要介護1～5の方を対象に、短期の入所期間中に上記の介護老人保健施設と同様のサービスを提供するサービスです。冠婚葬祭による介護者の不在、介護者の負担軽減、集中的なリハビリテーション等、利用の目的は様々です。

(介護予防) 通所リハビリテーション

要支援1～2・要介護1～5の方を対象に、日帰り施設等に通所していただき、ご利用者が在宅生活を継続できるよう、リハビリテーションのほか、食事、入浴などの日常生活上の支援を提供するサービスです。当施設には、通常時間(6h程度)のほか、リハビリテーションのみに特化した短時間(1h程度)のプログラムがあります。

居宅介護支援

要介護1～5の方を対象に、適切なサービスを利用できるよう、ケアマネジャーがご本人・家族の要望を伺いながらケアプランの作成・見直し、サービス事業者との連絡調整等を行うサービスです。



リハビリテーション



家屋訪問



地域の保育園との交流会



夏祭り



医療法人財団 慈強会

松山リハビリテーション病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

〒791-1111 松山市高井町1211番地

TEL.089-975-7431 FAX.089-975-1670

ホームページアドレス <http://www.jikyokai.or.jp>

許可病床 326床・6病棟(回復期病棟160床・一般病棟116床・療養病棟50床)

日本リハビリテーション医学会研修施設

●交通のご案内 伊予鉄久米駅より伊予鉄ループバス約15分 タクシー約7分

●関連施設

介護老人保健施設 高井の里

TEL.089-975-7761 FAX.089-976-5779

東松山在宅ケアセンター

東松山訪問看護ステーション TEL.089-975-7425

東松山居宅介護支援事業所 TEL.089-975-6158

東松山訪問介護事業所 TEL.089-970-1238

社会福祉法人 慈光会 介護老人福祉施設 ていれぎ荘

TEL.089-975-5558 FAX.089-975-9300

味酒野 ていれぎ荘

TEL.089-989-5571 FAX.089-989-5572

〈松山市委託事業〉松山市地域包括支援センター 小野・久米地区

TEL.089-970-3761 FAX.089-975-7620

編集責任者 事務長 武井淳二